

長池公園で撮影された夜の生きもの編

夜の長池公園で最もよく写っている生き物は、ホンドタヌキ、ニホンアナグマ、そしてハクビシンです。彼らは全く別の種類（※タヌキはイヌ科、アナグマはイタチ科、ハクビシンはジャコウネコ科）でありながら、夜間、拾い食いをしながら緑地から緑地へ移動していくことなど、共通点も多いことが分かってきました。同じけもの道を利用していることも、興味深い事実です。このことは、それぞれの動物が‘ニュータウン生活に順応した結果’なのかもしませんね。

以前から、来園者による目撃情報はあったものの、公園スタッフは出会えないでいるニホンイタチが撮影されました。写真に写る、鮮やかな黄金色の毛並としなやかで細長い胴体は、まさにイタチの特徴です。魚のいる水辺を好むため、長池の周辺を行動圏としていることが分かりました。いつか、生で遭遇してみたいものです。なお、普段は姿を見ない夜行性のアカネズミも、センサーダラマでは度々確認されています。

なんと、ペット由来の特定外来生物であるアライグマが複数個体写りました。一見するとタヌキと見間違えてしまいそうですが、顔の模様が異なり、尻尾には独特の縞模様があります。他の生物や生態系への影響を考えると、駆除対策を検討しなければならないようです。



アライグマ



ホンドタヌキ



ニホンアナグマ



ハクビシン



ニホンイタチ



アカネズミ

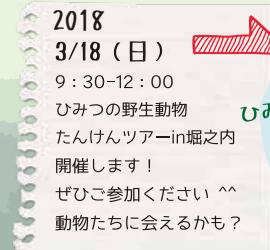
深山幽谷で繁殖し、秋になると丘陵地の雑木林まで渡ってきて冬を越すトラツグミ。ここ最近は毎年その姿を見かけますが、センサーダラマにより今年も既に渡ってきてることが判明しました。それにしても、この写真の倒木には色々な野鳥が止まります。周りを見渡すのに都合が良いのでしょうか？



トラツグミ



コジュケイ



2/1より
予約開始